第 １０ 回

越 谷 市 教 育 委 員 会 議 事 録

令和３年 ８ 月２６日

定 例 会

令和３年第１０回越谷市教育委員会議事録

招集年月日　　令和３年８月２６日

招集の場所　　越谷市役所本庁舎８階　第１委員会室

開閉会日時　　開会８月２６日　午後　２時００分

閉会８月２６日　午後　３時４０分

出席委員

教育長	吉田　茂	教育長職務代理者	野口久男
委員	堀川智子	委員	荒木明子
委員	渡辺律子	委員	山口文平

欠席委員　　なし

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部長	鈴木　功	学校教育部長	岡本　順
教育総務部副部長兼教育総務課長	渡辺真浩	学校教育部副参事兼学校管理課長	紺野　功
教育総務部副参事兼スポーツ振興課長	八木下　太	学校教育部副参事兼指導課長	小野寺秀明
教育総務部副参事兼図書館長	横山みどり	学校教育部副参事兼給食課長	石川智啓
生涯学習課長	木村和明	学校教育部副参事兼教育センター所長	齋藤紀義
生涯学習課調整幹兼科学技術体験センター所長	前田清彦	学務課長兼小中一貫校整備室長	青木元秀
		指導課調整幹	秋元伸也
		教育センター調整幹	田嶋栄蔵

職務のため会議に出席した者の職氏名

教育総務課副課長	濱田尊則

	議　　事	てん末
議事状況	教育長報告	
	・教育長専決第２１号について	（秘密会）
	・教育長専決第２２号について	
	・教育長専決第２３号について	
	議　　案	
	・第３７号議案　令和４年度使用中学校教科用図書の採択について	原案可決
	・第３８号議案　令和３年度越谷市教育功労者等被表彰者の決定について	原案可決 （秘密会）

◎開会の宣告

吉田教育長　それでは、これより８月の定例教育委員会会議を開会いたします。

本定例会に関し、１名の方から傍聴許可願が提出されておりますが、教育長専決第21号及び第38号議案については、人事案件であることから秘密会とし、先に審議したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長　ご異議ないようですので、そのように進めさせていただきます。

（午後　２時００分）

吉田教育長　ここで、傍聴人の入室を許可します。

〔傍聴人入室〕

◎教育長報告　「教育長専決第２２号について」

吉田教育長　それでは、教育長報告「教育長専決第22号について」、学校管理課長から説明いたします。

学校管理課長。

紺野学校管理課長　それでは、専決第22号についてご報告させていただきます。

恐れ入りますが、会議要綱の７ページをご覧ください。

専決第22号　越谷市立学校設置条例の一部を改正する条例の原案決定について。

越谷市立学校設置条例の一部を改正する条例の原案決定について、別紙のとおり専決処理する。

令和３年８月13日、越谷市教育委員会教育長。

次に、会議要項の９ページをお開きください。こちらは、令和３年９月定例市議会に、越谷市長が提出する議案の原案でございます。

提案理由でございますが、小中一貫教育の効果的な実現を図るため、新たな越谷市立蒲生小学校を設置することに伴い、所要の改正を行う必要があるため、提案するものでございます。

次に、会議要項の11ページをお開きください。７月の定例教育委員会会議で、「蒲生小学校・蒲生第二小学校の合併に伴う新校名について」ご協議いただきましたが、改正の内容につきましては、小学校の名称及び位置が掲げられている別表第１の「越谷市立蒲生小学校」及び「越谷市立蒲生第二小学校」の項を削り、新たに「越谷市立蒲生小学校」の項を加えるものでございます。

また、本条例は、令和４年４月１日から施行いたします。

なお、今回の条例の具体的な改正内容につきましては、お手元の資料「新旧対照表」の１ページに掲載しておりますので、ご参照いただきたいと存じます。

教育長専決第22号についてのご報告は以上でございます。

吉田教育長　ただいまの説明に対して、ご質問またご意見等はございますか。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長　なければ、この件については以上といたします。

◎教育長報告　「教育長専決第２３号について」

吉田教育長　続きまして、教育長報告「教育長専決第23号について」、教育総務部長から説明いたします。

教育総務部長。

鈴木教育総務部長　それでは、専決第23号についてご報告をさせていただきます。

恐れ入りますが、会議要項の13ページをご覧ください。

専決第23号　令和３年度越谷市教育費補正予算の見積りについて。

令和３年度越谷市教育費補正予算の見積りについて、別冊のとおり専決処理する。

令和３年８月13日、越谷市教育委員会教育長。

それでは、恐れ入りますが、別冊１の令和３年度越谷市教育費補正予算総括表及び予算説明書の２ページ及び３ページをお開きください。

初めに、歳入についてご説明いたします。３ページの表の一番下にございます歳入合計欄をご覧ください。教育委員会に関連する歳入につきましては、今回9,100万円を減額し、補正後の総額は25億8,386万6,000円となります。

歳入の内容でございますが、６ページ及び７ページの（１）、歳入予算説明書をご覧ください。14款国庫支出金、２項国庫補助金、６目教育費国庫補助金につきましては、オンライン学習に伴う貸出用モバイルルーターの整備に係る国庫補助金として、学校ＩＣＴ環境整備事業費補助金800万円を追加します。

次に、18款繰入金、１項基金繰入金、３目公共施設等整備基金繰入金につきましては、小学校の施設管理に係る設備等改修工事の事業費の確定に伴い、公共施設等整備基金繰入金9,900万円を減額します。

次に、歳出の内容でございますが、恐れ入りますが、戻りまして５ページ下段の教育費に係る歳出合計欄をご覧ください。今回１億5,211万円を追加し、補正後の総額は108億1,238万2,000円となります。

歳出の主なものについてご説明を申し上げます。14ページ及び15ページの事業別予算説明書をご覧ください。１項教育総務費、２目事務局費の教育活動支援事業につきましては、特別支援教育支援員等の配置に係る会計年度任用職員報酬として200万円を追加します。

次に、３目学校教育指導費のうち、外国語指導事業につきましては、外国語指導委託料の契約

額の確定に伴い2,800万円を減額します。

また、その他学校教育指導費につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、修学旅行等を中止する際に発生する費用の保護者への助成として、集団宿泊行事臨時補助金3,400万円を追加します。

次に、４目教育センター費の学校系ネットワーク運用事業につきましては、小中学校が臨時休業となった際のオンライン学習に伴う貸出用モバイルルーターに係る通信運搬費として190万円を追加します。

16ページ及び17ページをご覧ください。次に、５目科学技術体験センター費の科学技術体験センター管理運営費につきましては、科学技術体験センターに係る改修工事費として340万円を追加します。

次に、２項小学校費、１目学校管理費のうち、学校活動運営費につきましては、学校活動の運営に係る薬品処分等委託料として250万円を追加します。

また、施設管理費につきましては、小学校施設管理に係る委託料の追加に加え、施設改修に係る設計委託料及び改修工事費の追加並びに設備等改修工事費の減額を行い、合わせて690万円を追加するほか、備品等整備事業につきましては、小学校に係る備品購入費として260万円を追加します。

18ページ及び19ページをご覧ください。３項中学校費、１目学校管理費のうち、学校活動運営費につきましては、学校活動の運営に係る薬品処分等委託料として150万円を追加します。

また、施設管理につきましては、中学校施設管理に係る委託料及び施設の改修工事費として、合わせて１億650万円を追加するほか、備品等整備事業につきましては、中学校に係る備品購入費として340万円を追加します。

次に、６項社会教育費、１目社会教育総務費の成人式開催事業につきましては、成人式開催に係る委託料の追加及び借上料の減額を行い、合わせて83万円追加します。

次に、３目コミュニティセンター費のコミュニティセンター費につきましては、越谷コミュニティセンターの使用料に係る還付金として４万円を追加します。

20ページ及び21ページをご覧ください。７項保健体育費、１目学校保健費の健康管理事業につきましては、児童生徒の健康管理に係る環境衛生器具購入費として34万円を追加します。

次に、下段の４目市立体育館費のうち、市立体育館管理運営事業につきましては、総合体育館の備品整備に係る施設用器具購入費として1,190万円を追加します。

また、施設管理費につきましては、総合体育館施設改修に係る委託料として210万円を追加します。

教育長専決第23号に係るご報告は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

吉田教育長　ただいまの説明に対して、ご質問またはご意見等はございますか。

私のほうから、19ページの成人式開催に係る委託料の追加及び借上料の減額について、少し補足してもらえますか。

生涯学習課長。

木村生涯学習課長　成人式につきましては、昨年度は式典を開催しないという形で実施させていただきましたが、今年度につきましては一昨年度までの開催方法と同様に、13地区各地区に実行委員会を組織いただき、それぞれ会場を設けて式典を開催するということで準備を進めさせていただいているところでございます。

その中で、例年ですと市内７会場の中学校体育館と、中央市民会館をはじめとする公共施設など４会場、合わせて11会場で開催をしておりましたが、埼玉県立大学と文教大学の２会場につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、現段階で借用の見通しがたたないことから、準備を進める都合もあり、埼玉県立大学の代替として大袋中学校、文教大学の代替として西中学校と武蔵野中学校をそれぞれの会場として準備を進めさせていただきたいということから、両大学を借りるために計上しておりました会場借上料57万円を減額し、体育館の養生や会場設営に係る経費としまして、３中学校分の会場の設営等委託料として140万円を追加させていただき、差引き83万円を補正予算として計上させていただいたものでございます。

吉田教育長　他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長　なければ、この件については以上とします。

◎第３７号議案　令和４年度使用中学校教科用図書の採択について

吉田教育長　続きまして、第37号議案「令和４年度使用中学校教科用図書の採択について」審議を行いますが、ここで事務局職員の入替えを行います。

〔出席者の入替え〕

吉田教育長　それでは、第37号議案「令和４年度使用中学校教科用図書の採択について」、指導課長から説明いたします。

指導課長。

小野寺指導課長　それでは、第37号議案　令和４年度使用中学校教科用図書の採択についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の15ページをお開きください。

第37号議案　令和４年度使用中学校教科用図書の採択について。

令和４年度使用中学校教科用図書を別紙のとおり採択するものとする。

令和３年８月26日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条

第２項の規定に基づき、令和４年度使用中学校教科用図書の採択を実施するため、提案するものでございます。

越谷市立小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第６号及び越谷市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第３条の規定により、本市教育委員会で行うこととなっております。

恐れ入りますが、会議要項の17ページをお開きください。今年度採択する中学校教科用図書は、採択一覧表でお示ししましたとおり、社会・歴史的分野の１種目でございます。

中学校教科用図書につきましては、昨年度、中学校新学習指導要領全面実施に伴い、「道徳」を含めた全ての教科で、令和３年度から４年間使用する教科用図書の採択を実施いたしました。今回、中学校「社会・歴史的分野」の教科用図書における自由社の「新しい歴史教科書」について、教科用図書検定規則に基づき、検定審査不合格の決定の通知に係る年度の翌年度に行われた再申請により、令和２年度に発行されることとなりました。このことから、教科書採択の趣旨である公平性や透明性の確保の観点等を鑑み、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条第２項及び同法施行規則第６条第３号の規定に基づき、「社会・歴史的分野」の１種目において採択手続を実施するものでございます。

また、採択された教科用図書につきましては、令和４年度から３年間の使用となります。

なお、その他の種目につきましては、令和２年度に採択した教科用図書を継続して使用いたします。

採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領に基づき行います。初めに、越谷市立小中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行い、続いて教育長及び教育委員の皆様からの質疑にお答えいたします。その後、教育長及び教育委員の皆様でご協議いただいた後、採択をお願いいたします。

第37号議案についてのご説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

吉田教育長　これより教科用図書の審議を行います。

審議に入る前に、委員の皆様にお諮りをいたします。

採択の方法ですが、社会・歴史的分野、全部の教科用図書発行者について、私及び委員がそれぞれ５段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合計が最も高い教科用図書発行者を採択することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長　ここで、傍聴人の方にお知らせいたします。

傍聴の心得にあるように、議案の進行を妨げるような言動はお控えいただきますようお願いします。静謐な会議の進行にご協力をお願いいたします。

ここで選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長　社会・歴史的分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

井上選定委員（新栄中校長）　失礼いたします。それでは、歴史的分野の報告をさせていただきます。

調査報告書の調査の観点について、実際に教科書を見ながら報告をさせていただきます。また、比較ができやすいように、単元は近世に絞らせていただき、導入部分、まとめの部分ということで見ていただければありがたいと思います。

まず、東京書籍でございます。98ページ、99ページをご覧ください。導入の活動には、小学校で学習した人物や文化財の資料、用語を掲載して、小学校の学習内容を中心に構成した年表を配置することで、小中７年間の社会科学習を系統的に展開できるようにしています。

また、生徒が課題を追求、解決するために、単元の導入で章の「探求課題」を立て、ちょうど99ページの右側の部分です。その解決のスモールステップとして、節ごとに「探求のステップ」を設定しております。ここが、非常に細かく記載しているところでございます。

146ページをご覧ください。「まとめの活動」では、時代を大観し、時代の特色を捉えることができるよう工夫されております。授業で学習した事柄を踏まえ、話し合うことで自分の考えを深めるための工夫が見られ、思考力、判断力、表現力を養う。例えばここではピラミッドストラクチャーなどで工夫されたまとめができるようになっております。

その他、「まとめの活動」としては60ページ、こちらには「クラゲチャート」、また96ページ、ここには「Ｘチャート」など豊富な資料が準備されております。その他、他教科でも扱う学習内容には教科関連マークを付し、教科を横断した内容の確認ができるようになっております。

６ページ、７ページをご覧ください。「歴史へのとびら」には、小学校で学習した人物や文化財、出来事を振り返る活動を設け、中学校での歴史学習にスムーズに導入できるようにしております。

続きまして、教育出版です。96ページ、97ページをご覧ください。近世の導入の部分です。「学習を始めよう」では、その時代を象徴する資料とそれに関わる問いを示し、これから学習する時代を大観し、見通しを持って学習を進められるよう工夫されております。

98ページ、99ページをご覧ください。見開きを１単位時間とし、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられております。右下の部分です。

歴史的な資料の読み解きを示唆する、例えば101ページの「読み解こう」や、135ページの「歴史の技」などの問いを設け、資料を活用する技能が身につくよう工夫されております。

142ページ、143ページをご覧ください。これがまとめのページです。「学習のまとめと表現」のページにおいて、歴史的な見方、考え方を働かせて、時代の特色を自分なりの言葉で説明する活動を取り入れるなどの工夫がされております。

144ページをご覧ください。下の部分のところに「時代の変化に注目しよう」というコーナーが

設けられ、このような絵等で時代の変化が分かるような形で示されております。第１章では、小学校で学習した人物や文化財を振り返り、時代区分や年表の見方を確かめられるようになっております。

続きまして、帝国書院です。102ページをご覧ください。「タイムトラベル」という部分です。絵やイラストが大きく、分かりやすく描かれております。ここには為政者だけではなく、一般の人々の姿も描かれております。つまり、生徒の目線である身近な生活の中で歴史を捉えられるようにするとともに、過去の様々な人々の営み、努力や工夫の上に歴史がつくられてきたことを感じ取れるよう工夫されております。前の時代と比較したり、疑問点を発見するなど、社会への興味関心を高め、学びに向かう意欲を喚起しています。授業者としては、大変活用しやすい資料となっております。

146ページをご覧ください。「タイムトラベル」というコーナーがございます。こうして比較することによって、その時代を振り返り、まとめていくということができるように工夫されているのも大きな特徴です。

145ページをご覧ください。「技能を磨く」では、資料の読解や聞き取りからの情報収集など多面的、多角的な分析の力を養えるよう工夫されております。ここにある「当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解する際には、当時の人々の言葉などの資料を基に、当時の人々になったつもりで考えることが大切です」とあります。これは、我々社会科の教員にとって、いつも大切にしているところでございます。

続きまして、山川出版です。102ページ、103ページをご覧ください。近世の日本の導入部分です。ここでは、日本史、世界史が並列になっていて、このとき世界ではどのようなことが起きていたのかということが一目で分かるように、またそれに関連するような資料が上下にちりばめられております。

110ページ、111ページをご覧ください。各世紀の世界の様子ということで、日本の歴史を扱いながら世界のことが大観できるような形の構成になっております。

152ページ、153ページをご覧ください。これがまとめのページです。時代全体を俯瞰して考えるための問いがあり、テーマで描いている事象がどのような時代を背景にしたものなのか、歴史の変化の過程で起こる諸課題がどのように解決され、積み重なってきたかを学ぶことができるように工夫されております。

150ページ、151ページをご覧ください。ここでは、身の回りの生活や身近な地域と歴史との関連を気づかせる発問が用意されております。これが「地域からのアプローチ」です。各事例地を通して歴史学習が紹介されています。つまり、地域から歴史を見ていこうというコーナーでございます。

続きまして、日本文教出版です。106ページをご覧ください。これが近世の日本と世界の導入の

部分です。これは、かなりダイナミックに紙面を使っております。見開きのページ、左側に中世、右側に近世、一目でその様子の違いが分かります。

110ページ、111ページをご覧ください。「地図で見る世界の動き」では、世界地図を用いて、日本にも大きな影響を与えた世界の事象について注目させております。

156ページをお開きください。「とらえよう近世の日本と世界の特色」のアクティビティ、右側のページでは習得した知識を関連させ、時代の特色を考え、説明したり、話合いや意見交換したりする学習活動が設けられております。

120ページや131ページには、地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財、先人を紹介するコーナーや特設ページが豊富に設けられているというのも大きな特徴です。

298ページをご覧ください。歴史の学習の最後に、よりよい未来を構想する教材を設定して、新しい時代を築く社会の参画者を育てるような工夫がなされております。

続きまして、自由社です。105ページをご覧ください。章の導入に、その時代を象徴するような資料と、小学校で学んだ人物を中心にした登場人物紹介コーナーが示され、学習の見通しを持つことができるように工夫されております。また、前の章のまとめ図がすぐ横に配置されており、歴史の流れが見やすくなっております。

107ページをご覧ください。見開きのまとめ「チャレンジ」、下の部分の黄色いところです。学習した後、挑戦したいワンポイントの課題が示され、学習内容を自分の言葉で表現するように工夫されています。また、106ページにあるような資料に吹き出しをつけ、疑問点や解説が掲載されております。また、生徒が興味関心を持って読み進められるように、学習内容に関連した「もっと知りたい」や「人物クローズアップ」などが設けられております。

147ページをご覧ください。「近世とはどんな時代だったのだろうか」では、人物比較の問題や、その時代を表すひとこと作文など、自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されております。

148ページをご覧ください。「対話とまとめ図」のページです。ここでは学習内容を整理し、まとめ図を基にした対話文を読むことを通して学習内容を振り返るよう工夫されております。

続きまして、育鵬社です。104ページ、105ページをご覧ください。導入に、その時代を象徴するような資料と、小学校で学んだ人物を中心にした「登場人物紹介コーナー」が示され、学習の見通しを持つことができるように工夫されております。

106ページ、107ページをご覧ください。「近世の世界へようこそ」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養えるように工夫されております。

もう一度前のページ、104ページ、105ページをご覧ください。ここにある“鳥の目”で見る近世、左側の上であります。“鳥の目”で見る近世、そして次のページは“虫の目”で見る近世、106ペ

ージの上のところに載っています。鳥の目は歴史を大観したもの、虫の目、これは時代の特色を表したもので、それぞれの時代ごとにこのような形でコーナーを設けてあります。

150ページ、151ページをご覧ください。「歴史のターニングポイント」、また「私の歴史博物館をデザインしてみよう」は、子どもにとって興味が湧く内容だと思います。

最後に、学び舎をご覧ください。86ページ、87ページです。近世を「世界がつながる時代」と題し、世界をつないだ交易や人の移動に注目しているところがおもしろいです。また、歴史の現場となった各地域の様子や出来事を具体的に記述して、地域の遺跡や文化財、博物館や資料館の名所を取り上げているというのも大きな特徴です。

134ページをご覧ください。これがまとめのページです。右側のところ、立場の違う９人がどのようにその時代を見ていたのか、多角的、多面的な観点からの見方ができるように工夫されております。

96ページをご覧ください。タイトルが非常におもしろいです。例えば「村に入ってきた秀吉」、次のページは「僧が見た朝鮮の民衆」など、そのタイトルからイメージしやすくなっているというのが特徴です。

４ページをご覧ください。「歴史への案内」、ここでは小学校の学習を振り返り、調べ学習の方法を体得できるように、例題を通して年代の表し方が身につくように工夫されています。歴史の現場となった各地域の様相、出来事を具体的に記述し、地域の視点から歴史を考えられるように工夫されております。

以上でございます。

吉田教育長　ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者　それでは、まず選定委員としてどの教科書を推薦するのかご説明願います。

瀧田選定委員長（北中学校校長）　私からお答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告や法定教科書展示会会場において来場者の皆様が提出したご意見なども参考にしつつ協議を行いました。協議終了後、選定委員14名全員が８種類の教科書発行者について５段階評価でそれぞれ記載して、無記名で投票しました。14人で５点満点ですので、70点が満点ということになります。

その結果、２番、東京書籍、68点、17番、教育出版、46点、46番、帝国書院、55点、81番、山川出版、39点、116番、日本文教出版、41点、225番、自由社、32点、227番、育鵬社、33点、229番、学び舎、30点という結果でした。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、68点の東京書籍、55点の帝国書院、46点の教育出版の３点を推薦いたします。

以上でございます。

吉田教育長　他にございませんでしょうか。

山口委員。

山口委員　選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長）　選定委員会では、主体的、対話的で深い学びが重視され、どのような工夫がなされているのかが話題として上がりました。どこの教科書につきましても、グラフや図等の資料が充実しておりまして、さらには資料を比較させるなど様々な工夫があることを協議いたしました。

以上でございます。

吉田教育長　よろしいですか。

他にございませんでしょうか。

荒木委員。

荒木委員　学校の調査報告書ではどの教科書の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

井上選定委員（新栄中校長）　学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く14票、次いで帝国書院４票、教育出版と日本文教出版、育鵬社、学び舎が１票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では単元を貫く学習課題が設定されており、探求学習ができるよう工夫されている。章末の「まとめの学習」や「クラゲチャート」や「Ｘチャート」、「ウェビング」等思考力を生かしてまとめられるよう工夫されているということです。

帝国書院では、章の振り返りが豊富である。「タイムトラベル」で、単元の初めで時代の特色や様子を大観でき、振り返りもできるように工夫されているので、学習効果が高いということです。

教育出版では、生徒が単元の導入部分の資料に興味を持ちそうであり、学習に取り組みやすいということです。

日本文教出版では、本文が簡潔にまとめられており、生徒にとって読みやすい。大単元、中単元、小単元ごとに探求の課題が明記されており、課題設定がしやすいということです。

育鵬社では、本文の説明が丁寧で分かりやすい。

学び舎では、教科書のサイズが大きいので、これ一冊で十分な教材となり得る。資料、写真が充実している等の意見がありました。

以上でございます。

吉田教育長　よろしいですか。

他にはございませんでしょうか。

堀川委員。

堀川委員　選定委員会には、１号委員として保護者がいますが、どのような意見が出たでしょうか。

瀧田選定委員長（北中学校校長）　私からお答えします。

１号委員、保護者の代表としてお二方いらっしゃるわけですけれども、お一方は教科書によって歴史の表現の仕方が違うようだと。教科書が自治体によって違うと、転出する生徒、転校する生徒は学ぶ内容が変わることで困ってしまうのではないかというような心配の声をいただいたところです。

それから、もう一方は資料が豊富だと、生徒や先生方にとっても、よい教科書になるのではないかというご意見をいただいたところです。

以上でございます。

堀川委員　ありがとうございました。

吉田教育長　他にはございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長　他になければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にございます４つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点１、内容についてご意見を伺いたいと思います。なお、観点の２から４についても関連がございますので、触れてもらっても構いませんので、よろしくお願いいたします。それでは、お願いいたします。

渡辺委員。

渡辺委員　非常に分かりやすいご説明ありがとうございました。

内容については、今ご説明いただいたように章扉であるとか、まとめのところとか、非常によく分かりました。

私は、アイヌや琉球王国の記載について、各教科書でどのようになっているということを見ていました。最近テレビなどでも問題になっているように、ある芸人がアイヌについて揶揄するような表現をしたということが問題になっておりまして、歴史的な背景等を知らないことが原因の一つではないかと思います。どの教科書にも歴史的な事実として単元の中にはあるのですけれども、その中でも例えば教育出版は84ページにしっかりと「琉球とアイヌの文化」ということで、トピックとして別に取り上げていたり、帝国書院に関しましても、120ページに単元とは別に取り上げていたり、自由社も同じように単元の中とは別に取り上げていたり、東京書籍も140ページに出していたり、山川出版も非常に詳しく取り上げておりましたが、このようなところがやはりとても大切なのではないかと思いました。

以上でございます。

吉田教育長　渡辺委員から、今挙げていただきましたけれどもアイヌの表記については特にここがというのはございますか。

渡辺委員　山川出版は見開きで88、89、90、91と４ページにわたってトピックとして単元の中とは別に出しており、非常に分かりやすいなと思いました。

以上でございます

吉田教育長　資料を豊富に載せていると。

渡辺委員　歴史の中の一ページとして、ただ淡々と語るよりも、このように出していただくと、生徒の印象にも残りますし、単に言葉遊びのような誤った解釈をすることもないのではないかなと感じました。

以上でございます。

吉田教育長　学校ではよく言われますけれども、「教科書を」ではなくて「教科書で」教えるという、資料としては教科書以外の資料を使うことも多々あるかと思いますけれども、教科書に載せられている分量としては、その教科書が多かったということですよね。

渡辺委員　はい。

吉田教育長　他にございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者　今年改めて全ての教科書を見させていただいたわけですけれども、社会科の歴史ですので、社会的事象や歴史的事象を正しく理解する、理解を確実なものにするという一つの大きな狙いはあるかと思うのですけれども、どの教科書会社も主体的、対話的で深い学び、いわゆる自主的な学習なり考える力を養う学習活動に力を入れているなというのがよく分かりましたし、ただいまのご説明でも、そのことが確認できました。算数、数学の世界でも言われますけれども、課題解決型の学習を基本にしているのがよく分かるなと思いました。

東京書籍では、特に学習、そして「チェック＆トライ」などで具体的な活動を指示するような内容もありますし、教育出版では学習課題を明確にしてあった上で、「確認」、「表現」ということで、確かめようとか、何々を説明しようというような促し方をされております。

また、帝国書院でも学習課題を明確にしてありまして、確認しよう、説明しようということで、具体的な箇所を示し書き出してみようという指示もされているようでした。

それから、山川出版では学習課題という言葉は出ていないかもしれませんけれども、導入で学習課題の文を提示して、それを「ステップアップ」等により促していくという形を取っておりました。

日本文教出版でも学習課題、そしてそこには見方、考え方を促すような記述もございますし、最後に深めようということで、さらに思考を深めるような考え方をされております。

自由社は今年入ってきたわけですけれども、学習課題ということで明確には書いてありませんけれども、やはり導入の部分で学習課題の文章、文を載せて、課題を持って取り組めるようにしてありますし、まとめでは「チャレンジ」、それから説明しようということで、まとめの形を取る

ようにしているなと思いました。

また、育鵬社では課題ということで銘打ってありまして、まとめの部分ではまとめましょうということで、あるいは調べましょう、証明しましょうなどの記述でまとめを促しているなということがよく分かりました。

その中で、現場では東京書籍の教科書がいいということで点数が高いのかなと思うのですけれども、恐らく「チェック＆トライ」などを見ておりますと、大変具体的な内容が記述されているので、その部分では分かりやすいのかな、活動を非常に具体的に指示してあるので分かりやすいのかなと感じました。

また、先ほどの説明にもありましたけれども、クラゲチャートとか、まとめの部分でも非常に工夫されたまとめ、少し興味関心を引くようなまとめ方も、現場の声として入れられているのかなという感想を持ちました。

以上でございます。

吉田教育長　野口委員から、学校調査等々に寄せられた意見等も踏まえて、こういうことが学校現場では学習を進めるに当たって分かりやすいのではないかというような観点からお話しいただいたかと思います。荒木委員お願いします。

荒木委員　どの教科書もそれぞれに工夫が見られると思いました。

年表スケールが、東京書籍、自由社では見開きの左下に、教育出版では中ほどにタイトル、学習課題とともに、帝国書院、日本文教出版では右端に配置されていて、今学習しているのは全体の流れの中のどこに位置する時代なのかという把握が常に行えるとともに、特にページの端にあるものについては、まるで辞書を引くような感覚で確認したい箇所を探すことができると感じました。

重複になりますけれども、帝国書院は学習の流れが分かりやすいと感じました。そして、やはり「タイムトラベル」の見開きの大きな絵は、あたかもタイムマシンに乗って旅したような気持ちになって見入ってしまい、生徒たちの興味も増すだろうと思いましたし、併せて「小学校で学んだ主な出来事」により、各時代を分かりやすく捉えることができ、「章の学習を振り返ろう」にも対応していることで、より効果的になっていると思います。

教育出版では、「歴史を探ろう」が深い内容、視点のものを扱っていると思いました。

現場からの推薦で最も多かった東京書籍は、課題をつかんで追求し、解決するという章の構成が分かりやすいと感じました。そして、まとめの構成がしっかりしていると思います。特に推薦理由にもあったチャートなどが、先ほども野口委員からお話がありましたように、やはり特徴的であり、他教科での活用はもちろんのこと、生徒たちがこれから生きていく上で様々な課題に直面したときに、非常に役に立つのではないかと感じました。ともすると知識を身につけることが中心になってしまう歴史の学習ですが、「探求のステップ」や「トライ」は思考をめぐらし、調査

し､情報を整理する力を養うことにつながるような発展性のある内容になっていると思いました。

以上でございます。

吉田教育長　野口委員。

野口教育長職務代理者　すみません。先ほど少し申し忘れてしまったのですけれども、学び舎につきましても学習課題については記載されているということと、併せて先ほど説明にもありましたとおり、学び舎の題名、導入の際の題名というのが大変工夫されているなという印象を私は持ちました。

以上でございます。

吉田教育長　文部科学省の検定を受けている教科書ですので、どの教科書もよくできているには違いないですけれども、特色を今幾つか挙げていただいて、お話をさせてもらいました。

他の委員の皆様はいかがでしょうか。

堀川委員。

堀川委員　今回、また改めて歴史の教科書を拝見させていただきました。少しお話がかぶるようなところもあるかと思いますけれども、現在使用されている東京書籍につきましては、やはり課題の設定も細かくされていて、段階を追って解決できるような流れになっているのではないかなと思いました。資料の配置やバランスもよく、文章を読みながら年代も確認しつつ、資料を見て確認するといったことが学習を進めやすいなと感じました。

あと、帝国書院の「タイムトラベル」は、子どもたちの興味関心を引き出してよろしいのではないかなと感じました。

以上でございます。

吉田教育長　他にはどうでしょうか。

山口委員。

山口委員　歴史という教科に関しては、やはりどうしてそういう出来事が起きたかということを考えさせる力を持たせるということが大事だと思います。東京書籍のような、いろんなチャートに分解していろんな物事を考えるということも非常にいい考え方だと思いますし､育鵬社の虫の目、鳥の目というマクロとミクロで歴史を見ていきましょうという視点も、すごくいいと思います。

あとは、最近の教科書はキャラクターが出てきて、そこに語らせるという手法というのは親しみやすいという面もあるのですけれども、逆に自分の力で考えるという意味では、あまりキャラクターが目立ち過ぎてしまうと、少しそちらに引っ張られてしまわないかなということの懸念は少し持ちました。ただ、各教科書でもその辺りは十分分かっていて、あまりキャラクターに歴史はこうだったと語らせるよりは、どう考えますかという語りかけ役に徹しているような感じもしますので、その点は問題がないかなと思いました。

以上でございます。

吉田教育長　他にございますでしょうか。

私からも、大体同じようなことに、繰り返しになってしまうのですけれども、今回の学習指導要領では選定資料のそもそもの調査の観点（１）から（３）があるのですが、やはり生きてはたらく知識、技能、前は基礎的、基本的な知識というようなことになっていたのですが、今度は生きてはたらくというのが付け加えられているのですけれども、それから未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力、さらには学びに向かう力、これは学習意欲のことを言っているのですけれども、これらを主体的、対話的で深い学びの実践による授業改善、これを通して身につけることが求められております。そこで、こうした力を身につけるために、主体的、対話的で深い学びの実践による授業を進めていくに当たっては、先ほどより出ていますけれども、まずはそうした授業につながる学習課題を、どう設定するのかが授業を進めていく上では大事になってまいります。

この点、東京書籍では、先ほどの選定委員さんのほうからも話がありましたけれども、99ページを見ていただくと、指摘があったとおり４章の近世日本の一番右下のところに探求課題と研究のステップというのが載っています。近世の日本に入るに当たって、日本の近世全体を貫き、近世の日本はどうなっているのだろうという課題を探求課題として、99ページの右下に載せているのですけれども、ここの課題は戦が続いた時代を経て近世ではどのようにして社会が安定したのか、この「安定」をキーワードにして課題を設定しています。次に戦国時代の終息、江戸幕府の支配の仕組み、それから江戸幕府の改革、この３つの視点から、そこにあるように、①から③にあるようにヨーロッパとの出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりを迎えたのか、なぜ江戸幕府の支配は260年も続いたのか。他の教科書にもあるのでしょうけれども、産業や文化が発達し都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革を迫られたのかといった課題を、安定をキーワードとした近世全体を貫く課題を探求課題とし、追求していく課題としています。

２ページを見てもらいたいのですけれども、目次のところです。巻頭があって、巻頭の１、２、３辺り、次のところに２ページ、目次が載ってありますけれども、この目次の第４章の近世の日本のところを少し見ていただくと分かるかと思うのですけれども、ここでは章全体を近世の日本として、節を３つに分けています。ヨーロッパとの出会いと全国統一、江戸幕府の成立と対外政策、産業の発達と幕府政治の動きとなっていて、したがって章の初めに近世全体を貫く探求課題、安定をキーワードとして探求課題を載せて、そして節ごとにこの探求課題を追求していくための課題が設定されているということが分かるかと思います。

こうした課題は、近世日本の章だけでなく他の章、節においても同様に示されているわけです。このようにしたことによる利点は、他の委員の皆様もおっしゃっていましたけれども、歴史的分野ではどうしてもあれもこれもついつい教え過ぎてしまいがちになることが多くて、章の初めの探求課題と節ごとの探求課題を追求するための課題に沿って授業を組み立てることによって、知

識に偏り過ぎないよう基本的な事項を厳選することも可能になるということが挙げられるのかと思います。

ちなみに、学校調査研究では、単元を貫く課題が設定され、探求学習ができるよう工夫されているので、導入からまとめまで見通しを持った学習ができるようになっているとか、あるいは時代を大観して特色をつかみ、具体的にまとめる活動について分かりやすくまとめているとか、構成が工夫されているので使用しやすく内容の把握がしやすい。そういったコメントが、使った結果が寄せられているのです。

また、割と歴史的分野では、歴史的な事象の意味や特色などを、時期や年代、移り変わりに着目して、これは山口委員もおっしゃっていましたけれども、時期や年代、移り変わりに着目して歴史的なものの見方、考え方を働かせ、多面的、多角的に思考判断、表現力ができる力を養うことが求められます。これはアイヌの人権問題についても、多角的に見ていくということにつながっていくと思いますけれども、ここで言う歴史的なものの見方、考え方というのは社会的事象の時期とか、あるいは移り変わり、人々の相互関係などに着目して捉えて、類似や差異などを明確にしたり、事象を通しての因果関係などを関連づけたりすることで意味を考えられるようになっています。

東京書籍はこういう形になっているわけですが、ほかに150ページを見ていただきますと、これは前回も私は取り上げてお話しさせてもらったのですけれども、いわゆる開国と近代日本の歩みの中で、欧米における近代化の進展、これには産業革命も入ってくるのですが、そういったものを取り上げながら、市民革命も入ってきて、少しめくっていただいて160ページに欧米の進出と日本の開国、そして162ページでペリーの来航へとつながっていくわけですが、156ページに少し戻って見ていただくと、一番上にアメリカの開発の歴史が載っています。

アメリカは、ご存じのように東から西へと開発が進んでいくのですが、東の開発は最初の段階で進んでいるうちは、太平洋を横断して日本に来るというのは考えにくいところですけれども、西海岸に行くことによって、太平洋を渡って日本にやってくる可能性も出てくる。こういった地理的なものの見方とか、それから162ページ、これはハイネの公式な報告書に描かれている一つの絵で、当時のものとしてよく使われるものなのですが、これを少し眺めていくと、やはり船の構造自体も蒸気船ですから全然違いますし、国力の差が判然としていますし、何しに日本に来たのかということも考えられる。これを見ることによって、東から西に開発が進んだ地図と併せて見たり、あるいはこの蒸気船の少し大写しにした資料を見たりして、この時代になぜアメリカが日本にやってきたのか、やってくることができたのかを通して、ペリーの来航であるとか、産業革命であるとか、アメリカの開発の歴史であるとか、日本とアメリカの国力の違い、それが和親条約とか不平等条約の締結などにつながっていく。そういう歴史事象を関連づけて読み取ることによって、地理的なものの見方と併せて歴史的なものの見方、考え方、こういうものが鍛えられて

いくことができるのかなと。

吹き出しで説明してしまったり、まとめではっきり説明し過ぎてしまうと、考えることに及ばなくなるというお話もありましたけれども、こういう見せ方によって、歴史的なものの見方、考え方が鍛えられて歴史学習が深まっていくのかなと思います。

さらにどの単元も、他の教科書でもそうですけれども、162ページと163ページを見ても分かりますが、見開き２ページでちょうど１時間、授業１時間に当たる内容になっていて、しかも生徒それぞれの思考を引き出しやすい資料が載せられていて使いやすく、考えを見いだすものになっていると思っています。

したがって、学校調査研究では、図や資料が充実している、あるいは資料と文章のバランスがよく、見やすく分かりやすい、各ページに年表があり時代が分かりやすい、見方、考え方についても質問があり、考えさせやすい、資料が多くて様々な観点から学習を進めることができるといったコメントが東京書籍には寄せられております。

また、東京書籍の「新しい歴史」は、１年間歴史的分野の教科書として現在使用しているわけですけれども、今回の学校調査研究では15校中14校が推薦している、これは前回と同じです。15校中14校が推薦して、しかも１年間使った結果、使いやすい、分かりやすい、見やすい、考えさせやすいなどの記述は前回よりも多くなっているということが分かると思います。

今回加わった自由社の「新しい歴史教科書」については、10ページとか11ページを見てもらうといいと思うのですが、ここでは干支、十二支ですね、干支や太陽暦、それから太陰暦、さらに太陰太陽暦、これについての詳細な記述があります。これは、私は読んでいておもしろいなと思いましたけれども、それから16ページを見ると、小学校との系統性を意識した時代ごとに挙げられた歴史上の人物カードの作成、これも結構おもしろい試みかなと。小学校ではやっていますかね、おもしろい試みかなと思いました。

それから、38ページからから41ページ、ここには神話と歴史事象や信仰との関わり、それから神道について、これも分かりやすい丁寧な記述がございました。

それから、先ほど山口委員からもお話がありましたけれども、生徒目線で書かれた見開きのページごとには気づきとか疑問とか分かったことなどを吹き出しなどに表していく、そういう今言ったような幾つかの特色がこの教科書にはあるかと思います。

しかしながら、選定委員会からは良い指摘ということで説明がありましたけれども、例えば147ページの「時代の特徴を考える」というところがあるのですけれども、これはどうでしょうか。考えるという視点からすると、少し答えが、答えらしきものが既に書いてあるということでどうなのかなというところです。

それから、212ページも少し見てもらいたいのですが、上の図の説明があるところかと思います。これも丁寧に分かりやすく書いてあります。この図はこういう意味ですよというのが、下に解説

が書いてあるのです。ですので、生徒の個々の考えを引き出す、あるいは歴史的な見方、考え方を鍛えるという観点から考えると、このままストレートに扱うことについては一考を要するのかなと。分かりやすいということでは、表記としては非常に評価できますけれども、いざ考えさせるとなると、このまま使ってしまうと、そのまま答えを言ってしまっていますよということで、なかなか難しいかなと考えました。

私からは以上です。

他にございますでしょうか。大体よろしいでしょうか、観点１についてはよろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長　それでは、次に観点２から４についてですけれども、これについては既に触れられていたかと思いますので、観点の２から４についてはまとめて、もしあればお伺いいたしますが、ご意見があればお願いをいたします。

野口委員。

野口教育長職務代理者　それでは、これは資料のことになるかと思いますが、やはり東京書籍につきましては、前回もお話ししたかと思うのですけれども、18ページに小学校の社会で学習したことが載っていて、単元の終わりになって58ページでは、今度中学校でそれに付け足すように年表が書かれているということで、私が小学校の教員が長かったというのもあるかもしれませんけれども、これは非常に子どもたちにとっても分かりやすいかなと。小学校でこれを勉強して、中学校ではこれが付け加わってきたんだなということで、まとめやすいかなと思いました。この辺については、現場の先生方も、もしかすると使っていらっしゃるのかなと想像しました。

また、教科書を選ぶに当たっては、恐らく社会科の先生のなかですごく工夫なさる場所というか、普段から先生はいろんな資料を用意して展開しているかと思うのですけれども、経験の浅い教員からベテランの教員まで使うという前提で、恐らく学校でも意見を集約しているのかなと感じております。

以上でございます。

吉田教育長　今のことに関してでもいいですが、他によろしいですか。何かございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員　今の野口委員の観点から申しますと、やはり自由社に関しましても、例えば105ページを見ていただきますと、章の始まりにまず小学校で学んだ人物の紹介ということで、近世を通しての人物が出ていて、これは簡潔にまとめられているなと思いました。

そして、左側は前の中世の年表のまとめということで、これが終わって次に近世はこうなるんだなというのが非常に分かりやすいかなと感じました。

それと、先ほど教育長から、少し自由社は丁寧過ぎるのではないかというようなお話もあったかと思いますが、例えば100ページを見ていただきますと、章のまとめとして「もっと知りたい」

とか人物コラムとかがあったりするのですが、調べ学習というページがあって、次に復習問題のページというのがあって、そして時代の特徴を考えるページが作られていて、とても丁寧にまとめができているという印象を受けました。

特に103ページの「歴史用語のミニ辞典」ということで、主な歴史上の出来事等や人物が書いてあって、この「さくらさんのノート」というところを見ますと、まとめ方としてということで、まず人物の名前を書いて、次に括弧で生没年を書き、それから代表的な実績を入れるというのが、とても丁寧でまとめやすいかなと私は思いました。

そして、ひとこと作文というところで、これは中世のところなので、中世はどうだったのかとか、近世はどうだったのとかなどを、200字程度でまとめましょうというのも、自分なりの考えを自分の視点でまとめられるのではないかと感じました。

以上でございます。

吉田教育長　誤解のないように補足しておきますが、丁寧で分かりやすくて、いい表記にはなっているのですけれども、考えさせるということで、あるいは考え方、ものの見方を深めるという観点で見ると、最初にそれを見てしまうと、そこで思考が停止してしまう恐れがあるから、そういうときには資料の出し方とか読ませ方、それを工夫しなければいけませんねということで申し上げましたので、よろしくお願いします。

他にございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と答える者あり〕

吉田教育長　では、他にないようですので、これより歴史的分野の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長　採択は無記名投票により行い、私及び５名の委員の５段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長　次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長　それでは、順次投票をお願いいたします。

〔順次投票〕

吉田教育長　投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長　投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として野口委員、それから渡辺委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長　集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順に読み上げます。

２番	東京書籍	３０点
１７番	教育出版	２２点
４６番	帝国書院	２３点
８１番	山川出版社	２０点
１１６番	日本文教出版	１９点
２２５番	自由社	１８点
２２７番	育鵬社	１８点
２２９番	学び舎	１７点

以上のとおり、社会・歴史的分野の教科用図書は、２番、東京書籍を採択することに決しました。

以上をもちまして、予定していた全ての種目について審議が終了いたしました。

これより第37号議案「令和４年度使用中学校教科用図書の採択について」を採決いたします。

採択する教科用図書を種目名、発行者名の順に読み上げます。なお、発行者番号及び教科用図書名については省略いたします。

社会・歴史的分野、東京書籍。

以上の教科用図書を採択する旨、決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長　それでは、ご異議ないものと認めまして、本案は以上のとおり決定いたしました。

他に何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長　他になければ、以上といたします。

最後に、次回の教育委員会会議の日時でございますが、９月30日木曜日、午前10時から教育委員会室で開催したいと存じますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長　では、そのようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎閉会の宣告

吉田教育長　以上で本定例会に提出されました議事は終了いたしました。

これをもちまして閉会といたします。

ありがとうございました。

（午後　３時４０分）

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

教育長　吉田　茂

委員　野口久男

委員　堤川房子

委員　荒木明子

委員　渡辺律子

委員　[illegible]

書記　教育総務課副課長　濱田尊則